

## 令和2年度 事業報告

### 1、 総括

○2017年5月19日放映、NHKニュースウォッチ9を通し、大手印刷会社凸版印刷(株)との協力体制に結びつき、さらには、アートでの商用活動の幅に拡がりができた。

○新型コロナウイルス(Covid-19)の感染拡大により、現場でのアート展はすべて中止、インターネットでの開催に切り替えた。その内、エキスポでの売上10%を出雲市医療総合センターに目録贈呈した。

○アートタウンプロジェクトからの受注拡大へ

アートタウンプロジェクトの継続として中島運輸機工(株)からカレンダーの受注、(有)スエヨシ建設から足場シートの受注があった。

○ハーブ事業による安定収入

西部浄化センター横の太陽光発電所管理による、大きな定期的収入のおかげで、Covid-19感染拡大の影響があったにもかかわらず、障がい者への安定した給与に繋がった。今後も受注先への配慮に感謝しながら、安定した協力体制を継続して構築していきたい。

### 2、 組織の状況

#### ① 令和2年度末会員数

正会員 40 賛助会員 0 計 40

#### ② 理事数・理事会開催数

理事 7人 監事 2人 開催数 1回

### 3、 事業実施の成果

#### A) 就労継続支援B型“わんぱく大使館”事業

【平成30年4月1日(指定)】(2018年4月1日) 現在 25名(定員20名)

障がいのある人の個性や創造性に着目した新たな自立支援の道として平成24年4月1日からわんぱく大使館(B型事業所)をスタートしてきた。

現在定員20名のところ25名の利用者が施設利用している。

引き続き職員の人財育成、施設利用者へのきめ細やかなサービス提供につながるよう努めていきたい。

また、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大防止対策として、施設利用者が安心して施設利用できるよう、利用者、職員の健康管理はもちろん、空気清浄機、テレワーク機材の導入をするなど、環境整備の改善をおこなった。今後もCOVID-19の感染状況を踏まえながら、施設利用者が安全安心して施設利用できるよう努めていきたい。

## 利用者数の状況

定員20名

月度	(令和2年4月～令和3年3月)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	25	25	25	25	25	25	25	24	25	25	24	25
月平均利用	18	15	19	17	15	17	19	17	17	16	16	19
充足率(%)	90	75	95	85	75	85	95	85	85	80	80	95

## 就労支援事業収入と平均工賃額

月度	(令和2年4月～令和3年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
就労支援事業 収入(千円)	431	466	465	485	459	458	445	476	808	450	577	504
平均工賃(千円)	17	18	18	19	18	18	17	19	32	18	24	20

## B) アート展の開催

1、一畑百貨店アートフェア：新型コロナウイルス感染拡大のため(中止)

2、第10回国際チャレンジドアートエキスポインジャパン2020

2020年12月5日～2021年2月28日 インターネット開催

3、京都長楽寺お寺アート展 2020年11月10日～2021年1月10日

4、伊藤医院壁画 トキと灯台をテーマにした壁画アート作成、  
2021年2月1日～2月2日

5、柿アート展 2021年2月1日～3月1日 インターネット開催

## C) 計画相談支援および障がい児相談支援事業

【平成27年9月 1日（指定）】（2016年9月1日） 出雲 / 現在 8名

【平成28年10月24日（指定）】（2017年10月24日） 米子 / 現在 100名

利用者確保もさることながら、相談支援専門員一人一人の力量が求められるため、職員の資格取得者を含めた人材育成にも力を入れていきたい。

## 利用者数の状況

## ・出 雲

月度	（令和2年4月～令和3年3月）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
サービス提供実施回数	6	6	8	6	6	6	6	6	8	6	6	6

## ・米 子

月度	（令和2年4月～令和3年3月）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	130	125	120	115	110	105	100	100	100	100	100	100
サービス提供実施回数	13	8	10	17	8	9	/	/	/	/	/	/

## D) 共同生活支援“わんぱくハウス”事業

【平成29年4月1日（指定）】（2018年4月1日） 現在 3名（定員6名）

障がいがある人たちが安心して生活できる場として、平成29年4月1日からスタート現在3名（昨年同様）。経営の早期安定という課題は残るが、今後も、利用者の安全安心を第一に（COVID-19感染拡大防止も含め）事業の継続に努めていきたい。あわせて職員のの資質向上に繋がるよう、人材育成にも取り組んでいきたい。

## 利用者数の状況

## 定員6名

月度	（令和2年4月～令和3年3月）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
月平均利用	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
充足率（%）	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50

## E) わんぱく学園事業

## 【出雲市からの委託事業】

共生の町づくりの普及、そして、障がい児者の情報 県内の障がい者グループとの情報交換や相談の充実の場として32年行ってきた活動だったが、covid-19感染拡大の影響により、その殆どを自粛せざるを得なかった。